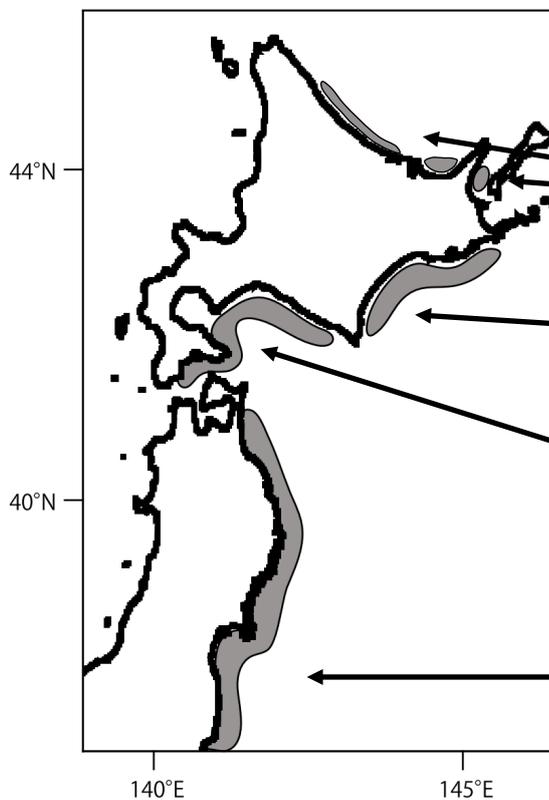




2021年度 第2回 太平洋スルメイカ長期漁況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し（2021年10月～12月）のポイント



スルメイカの来遊量は、根室海峡～オホーツク海および津軽海峡～道南太平洋海域では前年並、道東太平洋海域および常磐～三陸海域では前年を下回る。

根室海峡～オホーツク海：
来遊量は前年並。
魚体は前年並。

道東太平洋海域：
来遊量は前年を下回る。
魚体は前年並。

津軽海峡～道南太平洋海域：
来遊量は前年並。
魚体は前半は前年並、
後半は前年より大きい。

常磐～三陸海域：
来遊量は前年を下回る。
魚体は前年並。

問い合わせ先

国立研究開発法人水産研究・教育機構

担当：企画調整部門（横浜） 森永

浮魚資源部（横浜） 大島、加賀

電話：045-788-7615、ファックス：045-788-5001

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease>

2021年度 第2回 太平洋スルメイカ長期漁況予報

今後の見通し（2021年10月～12月）

対象魚種：スルメイカ

対象海域：道東太平洋海域、根室海峡～オホーツク海、津軽海峡～道南太平洋海域、常磐～三陸海域

対象漁業：いか釣り、底びき網、定置網、まき網

対象魚群：主に冬季発生系群（2021年級群）

1. 道東太平洋海域（いか釣り、底びき網）

- (1) 来遊量：前年を下回る。
- (2) 漁期・漁場：漁場形成は散発的となる。
- (3) 魚体：前年並

2. 根室海峡～オホーツク海（いか釣り、定置網、底びき網）

- (1) 来遊量：前年並。
- (2) 漁期・漁場：漁期の中心は前年と同様10月までとなる。
- (3) 魚体：前年並。

3. 津軽海峡～道南太平洋海域（いか釣り、定置網）

- (1) 来遊量：前年並。
- (2) 漁期・漁場：対象期間を通じて漁場となる。
- (3) 魚体：前半は前年並、後半は前年より大きい。

4. 常磐～三陸海域（いか釣り、底びき網、定置網、まき網）

- (1) 来遊量：前年を下回る。
- (2) 漁期・漁場：対象期間を通じて漁場となる。
- (3) 魚体：前年並。

I 予報の説明

2021年8月～9月に実施した漁場一斉調査とイカ類南下期資源調査¹⁾の結果(以降、いか釣り調査と総称する)、および7月～8月(一部9月を含む)の漁況経過を主要な情報として太平洋における10月～12月のスルメイカの来遊量を予測した。その結果、以下の通り、根室海峡～オホーツク海域、津軽海峡～道南太平洋海域では前年並、道東太平洋海域、常磐～三陸海域では前年を下回ると予測される。

1. 道東太平洋海域

この海域の漁獲対象資源は、太平洋沖合を北上する群が主体と考えられる。道東周辺海域(42°N以北、143°E以东)でのいか釣り調査による平均CPUE(いか釣り機1台1時間当たり漁獲尾数)は前年を下回った。道東における8月の小型いか釣り船CPUE(1日1隻当たり水揚げ量)は、8月下旬に花咲港を中心とした好漁により前年を上回った。しかしその後漁況は下降し、9月上旬以降の主要港におけるCPUEは前年を下回った(表1)。以上のことから、道東太平洋海域への来遊量は前年を下回ると予測される。魚群の分布には偏りが見られるため漁場形成は散発的になると考えられ、魚体サイズは、いか釣り調査の結果から前年並の個体が主体になると考えられる。

2. 根室海峡～オホーツク海域

この海域の漁獲対象資源は、太平洋沖合を北上する群が主体と考えられる。釧路以东(144.4°E以东)でのいか釣り調査によるCPUEは前年を下回った。北方四島周辺の太平洋側の海域における9月中旬までの平均海表面水温²⁾は7月中旬～8月上旬までは前年より高く、8月中旬～9月中旬は前年より低めとなっており変動が大きかった。10月までの予測水温³⁾(図1)によると前年並と思われるため、スルメイカの太平洋からオホーツク海へは水温環境がやや不安定であるものの、前年と比較して回遊しやすい環境であったと考えられる。以上のことから、根室海峡～オホーツク海域への来遊量は、前年並と予測される。オホーツク海沿岸の10月の水温は前年並と予測されているため、漁期は前年と同様に10月までと予測される。魚体サイズは、いか釣り調査による釧路以东での結果から前年並の個体が主体になると考えられる。

3. 津軽海峡～道南太平洋海域

この海域の漁獲対象資源は、津軽海峡～道南太平洋海域に分布する群と道東太平洋海域から南下する群が主体と考えられる。津軽海峡～道南太平洋周辺海域(41°N以北、143°E以西)におけるいか釣り調査のCPUEは前年を上回った。函館港と大畑港での8月の小型いか釣り船CPUEは前年を上回り、浦河港では水揚げがなかった(表1)。9月以降の函館港での小型いか釣り船CPUEは前年を下回り、大畑港では前年並、浦河港では前年を上回り、地域差が大きいですが、全体としては前年並みであった(表1)。また、前述の通り、道東太平洋海域への来遊量は前年を下回ると予測されている。以上のことから、津軽海峡～道南太平洋周辺海域への来遊量は前年並と予測される。魚体サイズは、いか釣り調査の結果から前半は前年並で、後半は前年のような小型個体が見られていないため、前年より大きい個体が漁獲の主体になると考えられる。

4. 常磐～三陸海域

この海域の漁獲対象資源は、常磐～三陸海域に分布する群と道東太平洋海域から南下する群が主体と考えられ

る。三陸周辺海域（41° N以南、143° E以西）におけるいか釣り調査では漁獲が無く、前年（0.3尾）並の低い水準であった。青森県、岩手県の主要港での8月の小型いか釣り船CPUEは前年を下回り、宮城県主要港では前年並であった（表1）。以上のことから、常磐～三陸海域に分布する群は前年を下回ると考えられる。また、前述の通り、道東太平洋海域への来遊量は前年を下回ると予測されている。さらに、10月下旬の予測水温³⁾（図1）によると、三陸沖に暖水塊が形成されると予測されており、道東太平洋海域からの来遊が妨げられる可能性がある。したがって、常磐～三陸周辺海域への来遊量は前年を下回ると予測される。いか釣り調査で三陸周辺海域での漁獲が無かったため、三陸周辺海域における魚体サイズの前年との比較には、漁業情報サービスセンターによるスルメイカ漁況・市況情報を利用した。その結果、前年並の個体が主体になると考えられる。

¹⁾北海道立総合研究機構釧路水産試験場が独自に実施。

²⁾ 気象庁の札幌管区气象台が公表している日別海域平均海面水温（<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/kaiyou/engan/engan.html>）

³⁾ 国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2012年5月より運用を開始した海況予測システム（FRA-ROMS）による予測水温

II 調査結果

8月～9月に実施されたいか釣り調査の結果（図2）、調査海域全体の平均CPUEは0.39尾で、前年（0.70尾）を下回った（図3）。海域別に見ると、道東周辺海域では0.06尾であり、前年（1.80尾）を下回った。道東周辺海域のうち釧路以東では0.02尾であり、前年（0.31尾）を下回った。津軽海峡～道南太平洋周辺海域では1.85尾であり、前年（0.68尾）を上回った。三陸周辺海域では漁獲がなく、前年（0.03尾）と同様の低い分布密度であった。

漁獲物の外套背長組成の最頻値は19 cmにあり、前年（20 cm）並であった（図4）。海域別に見ると、道東太平洋海域での最頻値は22 cmで前年（21 cm）並であった。また、道東太平洋海域のうち釧路以東においても同様であった。津軽海峡～道南太平洋周辺海域では前年は15 cmと20 cmが高頻度の二峰型であったが、2021年は小さいサイズが見られず最頻値が19 cmの単峰型であった。三陸周辺海域では漁獲が無かったため前年との比較はできない。

III 各海域の漁況経過

2007年以降の太平洋（根室海峡～オホーツク海を含む）における年間漁獲量¹⁾は7万～16万トンで推移していたが、2018年には1.7万トンまで減少した（図5）。2020年は2.2万トンで前年並であった。10月～12月に限定した累計漁獲量は、2007年以降5万～10万トンで推移していたが、2018年に7.4千トンまで減少したがその後やや増加し、2020年は11.7千トンであった。主漁場は常磐以北の太平洋海域であり、来遊経路から常磐～三陸海域、津軽海峡～道南太平洋海域、道東太平洋海域、根室海峡～オホーツク海域に区分される。

2020年10月～12月の常磐～三陸海域における漁獲量（生鮮）は8.2千トン、津軽海峡～道南太平洋海域では2.3千トン、道東太平洋海域では0.6千トン、根室海峡～オホーツク海では0.5千トン（図6）、千葉県以南の海域での漁獲量は40トンであった。2015年～2019年の平均に対する比は、常磐～三陸海域では121%、津軽海峡～道南太平洋海域では55%、道東太平洋海域では36%、根室海峡～オホーツク海では15%、千葉県以南の海域では84%であった。

2021年7月～8月の太平洋沿岸域での水揚げ量²⁾（生鮮：速報値、一部未集計）は1.0千トンで、前年（2.8千トン）を下回った。そのうち、常磐～三陸海域の主要港では0.5千トンで、前年（2.2千トン）を下回った。

津軽海峡～道南太平洋海域の主要港の水揚げ量は一部集計中だが、現状では0.2千トンで、前年（0.5千トン）を下回っている。道東太平洋海域の主要港では328トンで、前年（28トン）を上回った。根室海峡～オホーツク海では2トンで、前年（14トン）を下回った。千葉県以南の主要港では13トンで、前年（32トン）を下回った。なお、参画道県における代表的な漁況経過を表1に示した。

- 1) 主要港漁獲量を漁業・養殖業生産統計年報の値で引き延ばしているため、図7、図8を含めた漁獲量は全て推定値である。
- 2) 水揚げ量は単純積み上げた数値。

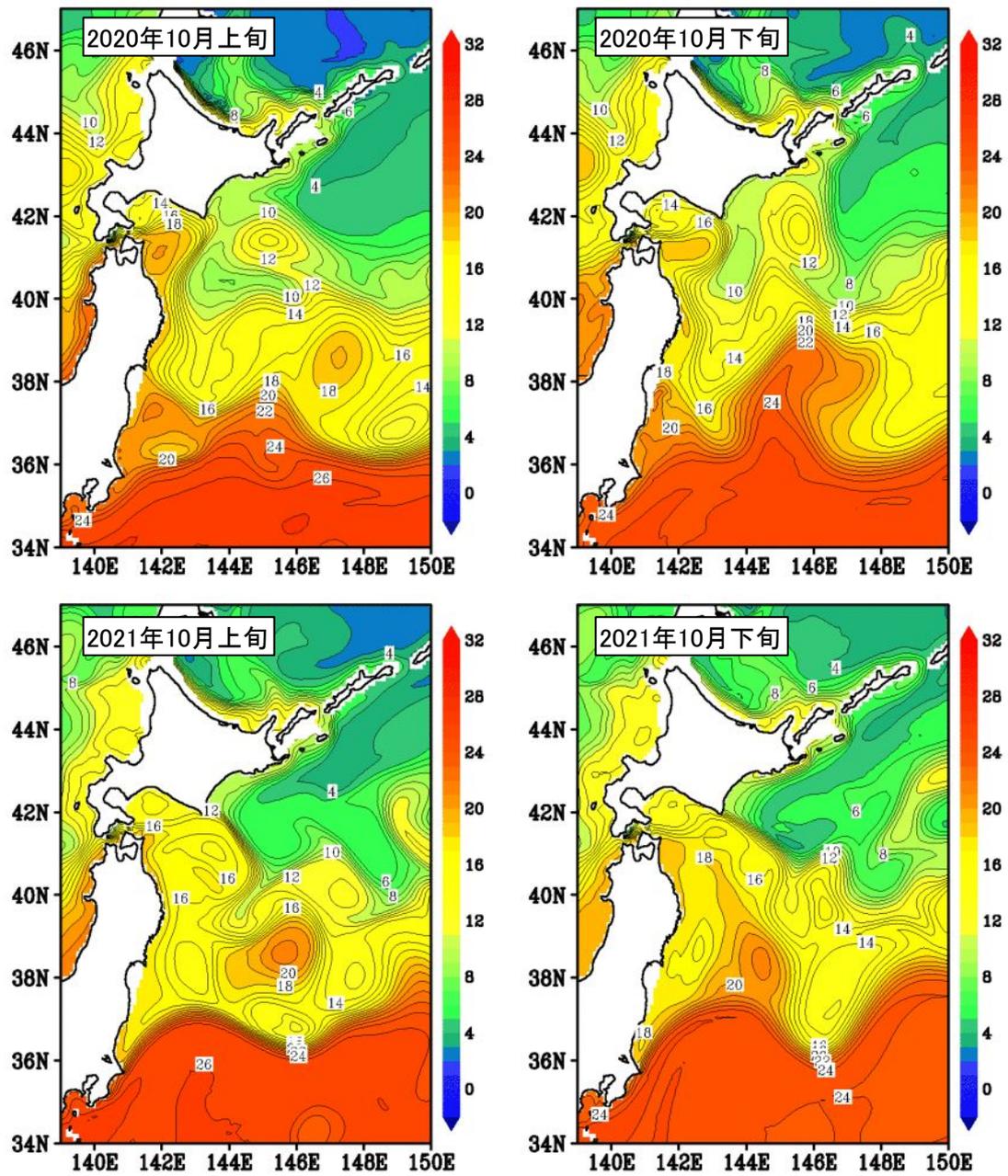


図1. 海況予測システムFRA-ROMSによる2020年、2021年の10月上旬と下旬の深度50 mにおける水温（2021年は予測水温）
 深度50 mはスルメイカの代表的な分布深度

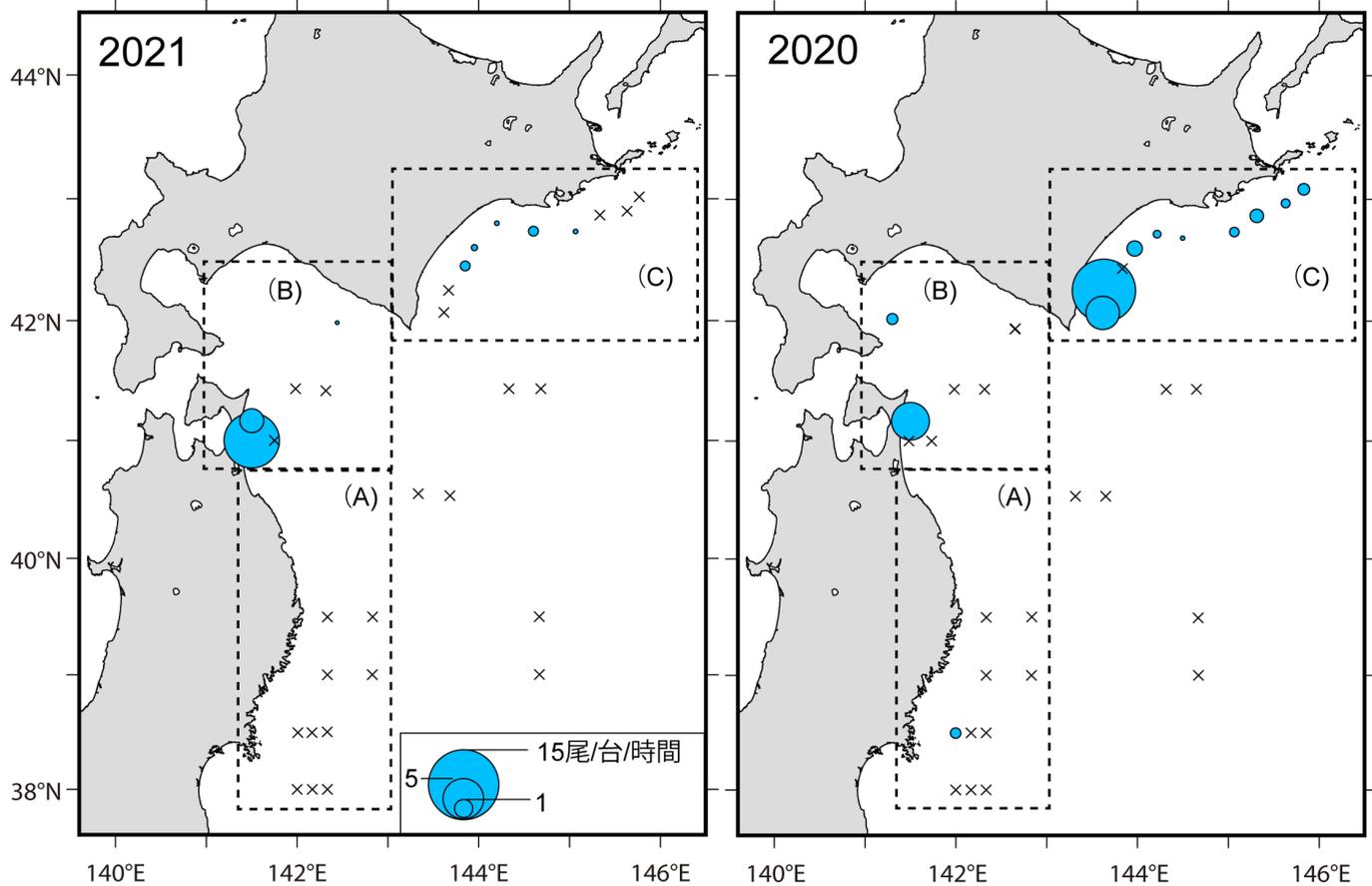


図2. 太平洋におけるいか釣り調査によるスルメイカのCPUE（いか釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）の分布

2021年8月～9月（左図）、2020年8月～9月（右図）のいか釣りによるスルメイカのCPUE

（いか釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）の分布を左図右下の凡例にしたがって示す（×は漁獲なし）。破線で囲まれた海域は（A）常磐～三陸周辺海域、（B）津軽海峡～道南太平洋海域、（C）道東太平洋海域および根室海峡～オホーツク海域における来遊量予測の根拠となった調査海域を示す

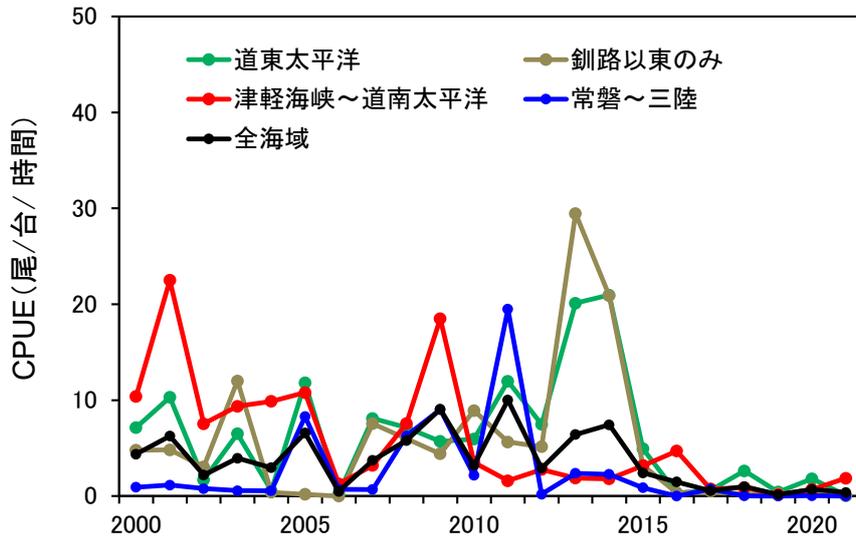


図3. 太平洋におけるいか釣り調査による海域別CPUEの年推移

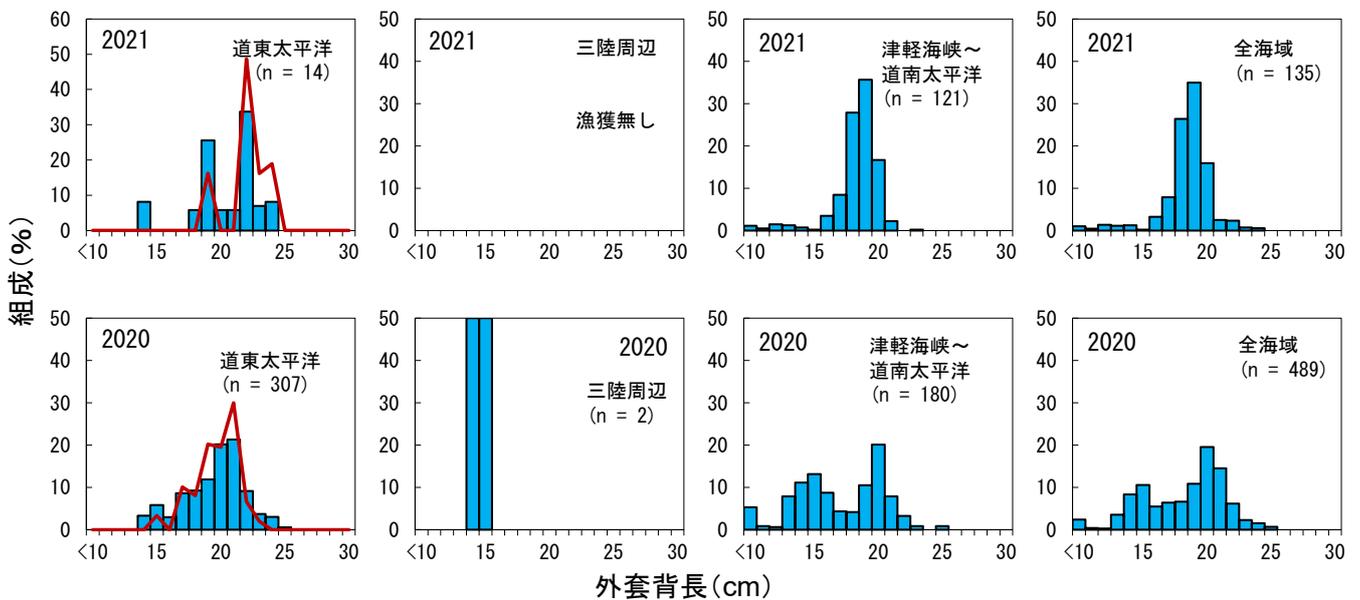


図4. 太平洋におけるいか釣り調査によるスルメイカ外套背長組成の結果

nは測定尾数を示し、最左図の赤線は道東太平洋海域の釧路以東のみの結果を示す

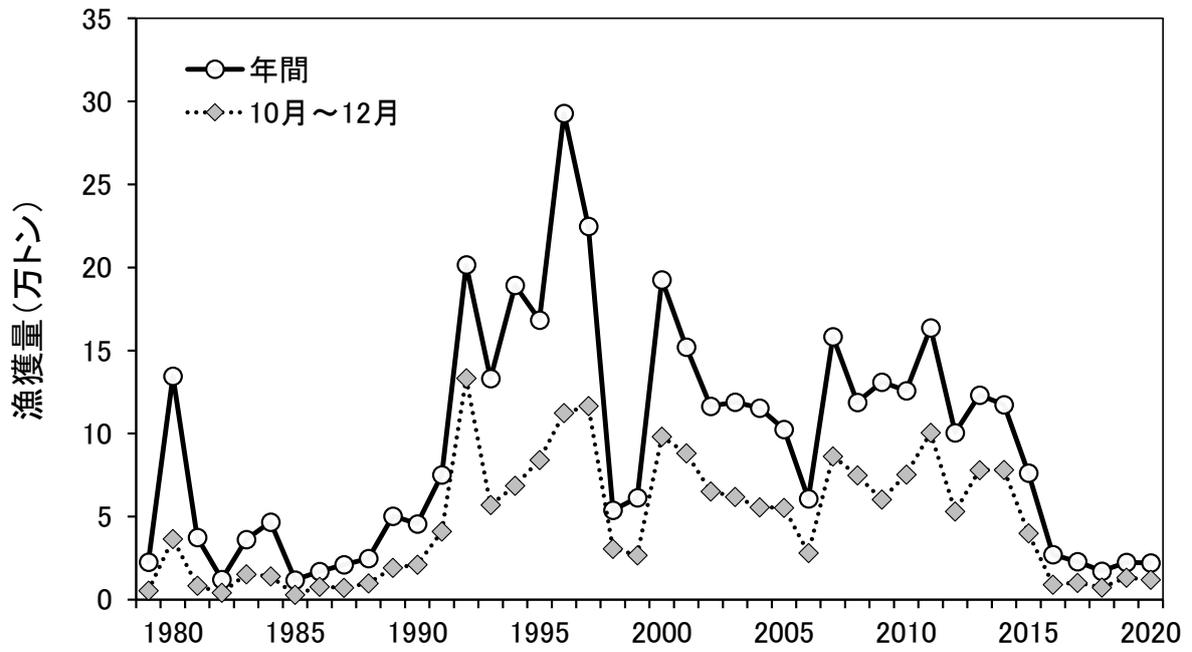


図5. 太平洋（根室海峡～オホーツク海を含む）におけるスルメイカの年間漁獲量（暦年集計）と10月～12月の累計漁獲量の推移

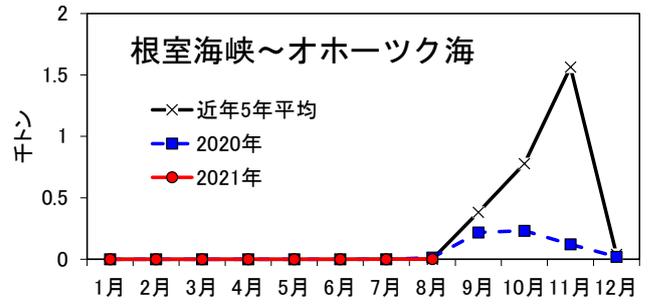
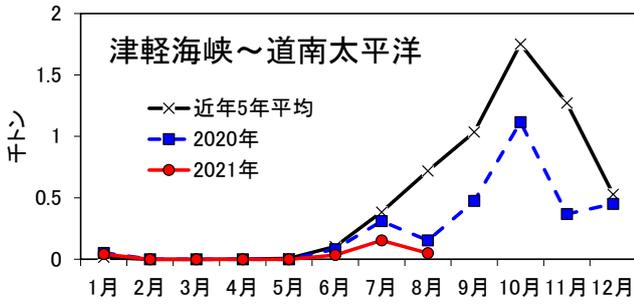
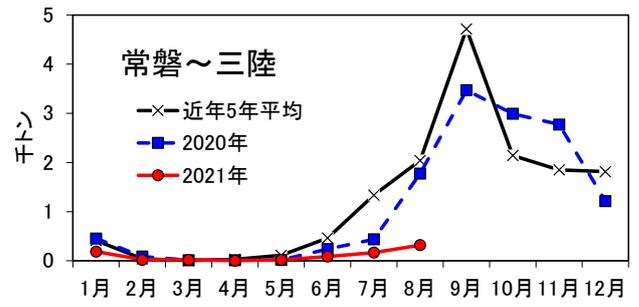
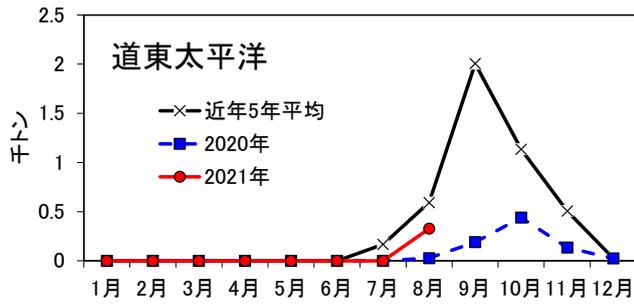


図6. スルメイカの月別海域別の漁獲量（生鮮）
 近年5年平均は2015年～2019年の平均
 （いか釣り・定置網・底びき網・まき網）

表1. 漁況経過（2021年7月～8月、一部9月・未集計・暫定データ含む）

| | 漁況経過 |
|-----------|---|
| 北海道 道東 | 太平洋側での初水揚げ日は8月4日（花咲港、釣り）で、前年（花咲港で8月10日、釣り）より早かった。 道東主要港での釣りによる8月の水揚げ量は263トンで前年（24トン）を上回り、CPUEは前年比322%であった。一方、9月上旬の水揚げ量は概算25トンで、前年（56トン）を下回り、CPUEも前年比45%となった。 羅臼港では8月27日に釣りによる初水揚げがあり、前年（8月25日）並であった。釣りと定置網による9月上旬までの水揚げ量は概算8トンで前年（40トン）を下回った。 |
| 北海道 道南 | 函館港での釣りによる8月の水揚げ量は36トンで前年比187%、CPUEは前年比197%であった。9月上旬の釣りによるCPUEは前年を下回った。 浦河港では9月1日に釣りによる初水揚げがあり、前年（8月6日）より遅かった。9月中旬までの釣りによるCPUEは前年を上回った。 南茅部での定置による7月の水揚げ量は78トンで前年比36%であった。 |
| 青森 | 大畑港での釣りによる8月の水揚げ量は309トンで前年比156%、CPUEは前年比120%であった。9月上旬の釣りによるCPUEは前年並であった。 白糠港での釣りによる8月の水揚げ量は80トンで前年比58%、CPUEは前年比68%であった。 八戸港での釣りによる8月の水揚げ量は113トンで前年比33%、CPUEは前年比57%であった。まき網による8月の水揚げ量は80トンで前年比8%であった。 |
| 岩手 | 岩手県主要港での釣りによる8月の水揚げ量は25トンで前年比11%、CPUEは前年比16%であった。 定置網による8月の水揚げ量は10トンで前年比86%であった。 |
| 宮城 | 宮城県主要港での釣りによる8月の水揚げ量は2.1トンで前年比66%、CPUEは前年比104%であった。定置網による8月の水揚げ量は0.3トンで前年比38%であった。底びき網による8月の水揚げ量は9トンで前年比85%であった。 |
| 福島 | 7月～8月は底びき網漁業の禁漁期間である。 |
| 茨城 | 7月～8月は底びき網漁業の禁漁期間である。 |
| 千葉 | 主要港での釣りによる8月の水揚げはなかった。定置網による7～8月の水揚げは0.6トンで前年比21%であった。 |
| 神奈川 | 間口港における釣りによる8月の水揚げは98kgで前年比67%、CPUEは前年比101%であった。 |
| 静岡 | 仁科港での釣りによる8月の水揚げ量は0.2トンで前年比33%、CPUEは前年比50%であった。 |
| 三重 | 奈屋浦港でのまき網による7～8月の水揚げ量は40kgで前年比5%であった。 |
| 和歌山 | すさみ港での釣りによる8月の水揚げ量は5トンで前年比99%、CPUEは前年比71%であった。 |
| 高知 | 釣りによる8月の水揚げは無かった（前年は5トン）。 |

注：CPUEは1日1隻当たり水揚げ量

参 画 機 関

| | |
|---|---|
| <p>地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場 函館水産試験場</p> <p>地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産資源研究所</p> <p>茨城県水産試験場</p> <p>千葉県水産総合研究センター</p> <p>神奈川県水産技術センター</p> <p>静岡県水産・海洋技術研究所</p> | <p>三重県水産研究所</p> <p>和歌山県水産試験場</p> <p>高知県水産試験場</p> <p>一般社団法人 漁業情報サービスセンター</p> <p>(取りまとめ機関) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所</p> |
|---|---|